

人口減少問題に思う(前編)

少しでも子どもが増えるきっかけになれば。市は「めぐちゃん祝い金」として、第1子の誕生に12万円、第2子に15万円、第3子以降に20万円を支給する新たな支援制度を令和3年4月から開始しました。加えて、子ども医療費助成の対象年齢を18歳の年度末までに拡大しましたが、どちらも人口減少対策の一環です。市政最大の課題ともいえ、3月に開催した北辰小学校の児童との意見交換会では、なんと！小学生から「人口減少を防ぐには」と、提言をもらったほです。(意見交換会の様子は市報3月15日号に掲載)

のだったのです。

当時の人口7,254万人を20年後には1億人にするというもので、方針の「婚姻年齢を3年早むると共に1夫婦の出産数平均5児に達することを目標」との記述には、「ああ、当時にして晩婚化を危惧していたのか」と思ったり。また、個別対策としては、積極的な結婚の紹介やあっせん、結婚費用の軽減や婚資貸付制度の創設、婚姻を阻害する就業条件の改善(今でいう、働き方改革か)、家族手当制度、死亡率を20年間で35%削減するための乳幼児保護と結核や自殺の予防、学校衛生や保健・体育施設の拡充、国民を対象とした健康保険制度の創設(今に続く、国民皆保険制度か)や過労防止策も掲げ、栄養知識や給食の普及までうたわれています。

私が特に注目したのは「特に大都市を疎開し人口の分散を図ること。これがため、工場、学校等は地方に分散せしむる如く措置する」の記述。あの時代ですでに地方創生ともいえる国策を掲げていることに驚きました。今と同じだ、と。(次号につづく)

国際大学留学生 お国自慢コーナー ~boast of my country~

シリーズ 第97回

ウズベキスタン共和国 フェルーザ マダミノヴァさん



私の国はこんなところ

ウズベキスタンは中央アジアに位置し、シルクロードの東西を結ぶ中核として栄えてきました。3都市サマルカンド、ブハラ、ヒヴァは交易商人が行き交う重要な交易都市です。壮麗なモスク(礼拝堂)やマドラサ(神学校)などを訪れ、古代通りを歩けば、タイムトリップしたような気分が味わえます。ウズベキスタンの代表的な料理はプロフ、サモサ、ケバブがよく知られています。気候は乾燥した大陸性気候で、四季があり、年間300日近く晴れの日を楽しむことができます。

南魚沼市に住んで感じたこと

南魚沼では山や田んぼに囲まれ、これまでで最も静かな環境で過ごしています。にぎやかな大都市で育った私は、この静寂を楽しんでいます。普段はサイクリングが好きですが、この雪国でスノーボードに完全に夢中になりました。2019年にIUJを修了し、1年間母国で過ごしましたが、南魚沼の環境のとりこになり、博士号を取得するため再び南魚沼に戻ってきました。



編集後記

5月になると、田んぼの畦道や山際に山菜が多く生えてきます。特に山際などに生える木の芽(アケビの芽)が大好きです。生卵を割り入れてしょうゆをかけて食べるととってもおいしいです。独特の苦みと滋味に富んだ香りに、芽吹きを感じます。この時期だけに会える春の恵みに感謝していただきたいです。(Y. K)

今月の表紙

4月5日(月)、うえだ保育園で入園式が行われました。上長崎保育園と下長崎保育園が統合し、初めての入園式となりました。名前を呼ばれた園児は元気に返事をしました。

市民の動き 令和3年3月末日現在 ()は対前月比

○人口 54,998人 (-249人) / 男 26,893人 (-128) 女 28,105人 (-121) ○世帯数 20,069戸 (-21)